

千葉県異業種交流融合化協議会

会長 春川 紀 雄



【協議会の沿革】

協議会は平成4年に、県内の異業種交流を目指す企業やグループがお互いの経営資源を提供し合って融合し、新たな事業分野を開拓することを目的に千葉県融合化協議会として発足。その後、活動分野の更なる拡大を目指して、現在の名称に変更。産学官連携の推進と研究開発型企業の交流と情報交換の場を提供してきた。さらに、人材、情報、技術等の交流と発表の場として、水に関するグループ、農業交流及びIT活用経営研究会の実施をはじめ関係団体と共催で中小企業新連携推進県大会や産学連携交流会等を開催して、その成果を上げてきた。

春川紀雄氏は協議会の会長で水に関するグループ研究会の会長も務めている。

【木更津鉄工業(協)の概要と春川氏の横顔】

木更津鉄工業(協)は昭和51年に木



春川鉄工(株) 第五工場

更津、君津地区の鉄工加工業者が中心となって、資材や消耗品の共同購入、受注斡旋等を目的に設立された。現在は金融事業、教育情報事業、福利厚生事業に事業の重点が移っているが、組合員の結束は固く多くの成果を上げている。春川氏は組合の理事で金融委員会の委員長。

春川さんは春川鉄工(株)の代表取締役社長。春川鉄工は昭和40年に新日本製鐵(株)の高炉建設を山丸運輸機工の協力工場として入ったのがはじまり。その

■ 千葉県異業種交流融合化協議会

所在地	千葉市中央区千葉港4-2 千葉県中小企業団体中央会内
代表者	春川 紀雄
会員数	18グループ (285企業)

■ 木更津鉄工業(協)

所在地	木更津市岩根4-9-19
代表者	榎本 栄
会員数	13名 (出資金260万円)

後新日鉄の工場操業に伴い業績は順調に推移してきたが、平成6年の大リストラの余波を受けて春川鉄工も人員削減を余儀なくされ、事業の多角化を図ってきた。現在の業務内容は製缶、機械加工、試験片製作、電子顕微鏡試験、試料の作製分析、機械試験と多岐にわたり、その特徴はサブミクロン(1万分の1mm)オーダーの微細加工ができること。主な取引先は新日本製鐵とそのグループ会社、建設省、金属材料技術研究所、大手ゼネコン、橋梁メーカー、さらには東京大学工学部をはじめとした大学や研究機関。

平成9年には創造活動促進法、平成12年には経営革新支援法による認定を受けている。

春川さんは木更津異業種交流プラザの代表をはじめ多くの団体の要職を勤めており、平成6年には社会保険功勞により厚生大臣表彰、平成12年には公

正取引功勞により公正取引委員会会長表彰を受賞。また、平成11年には、ロシア中小企業支援ミッションに参加。モスクワ市商工会議所において「研究開発と多角化戦略」をテーマに講演した。

趣味は読書とのこと。これは趣味の領域を超えており、まさに研究開発に欠かせないためだ。需要があれば未開拓分野の仕事でも引き受けているために、いつも最先端の資料や文献を調べるのが日課になっているそうだ。

最後にこれからの夢をお伺いしたところ「残り少ない人生ですが、一つでも多くの不可能を可能にする挑戦と家族と従業員を大切に、生涯現役を目標にしたい」とのことでした。

昭和9年2月木更津生まれ。お母さんと奥様、そして一男二女で木更津市に在住。



協議会総会



経営革新・連携グループセミナーにて、左より中央会菊地副会長、県商工労働部井上次長、協議会春川会長